

## 平成23年3月期 第1四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

平成22年7月26日

上場会社名 JSR株式会社 上場取引所 東・大  
 コード番号 4185 URL http://www.jsr.co.jp  
 代表者 (役職名) 取締役社長 小柴 満信  
 問合せ先責任者 (役職名) 広報部長 櫻井 秀雄 TEL 03-6218-3517  
 四半期報告書提出予定日 平成22年8月12日 配当支払開始予定日 -----  
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有  
 四半期決算説明会開催の有無 : 有(機関投資家、アナリスト向け)

(百万円未満切捨て)

## 1. 平成23年3月期第1四半期の連結業績(平成22年4月1日～平成22年6月30日)

## (1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
23年3月期第1四半期	86,225	27.5	10,032	—	10,370	—	5,601	—
22年3月期第1四半期	67,652	△33.3	△3,175	—	△2,494	—	△4,609	—

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
23年3月期第1四半期	22.93	22.91
22年3月期第1四半期	△18.87	△18.86

## (2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
23年3月期第1四半期	370,983	250,423	67.1	1,019.91
22年3月期	373,565	250,700	66.8	1,021.31

(参考) 自己資本 23年3月期第1四半期 249,096百万円 22年3月期 249,440百万円

## 2. 配当の状況

(基準日)	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
22年3月期	—	13.00	—	13.00	26.00
23年3月期	—	—	—	—	—
23年3月期(予想)	—	16.00	—	16.00	32.00

(注) 配当予想の当四半期における修正の有無: 無

## 3. 平成23年3月期の連結業績予想(平成22年4月1日～平成23年3月31日)

第2四半期(累計)、通期とも、4月26日に発表しました数値と変更ありません。

(%表示は、通期は対前期、第2四半期(累計)は対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
第2四半期(累計)	170,000	18.9	17,500	431.8	18,500	495.3	11,000	—	45.04
通 期	347,000	11.9	38,000	87.8	39,500	76.5	25,000	83.2	102.36

(注) 連結業績予想数値の当四半期における修正 : 無



## 4. その他

(1) 当四半期中における重要な子会社の異動 : 無

(2) 簡便な会計処理及び特有の会計処理の適用 : 有

(注) 詳細は、四半期決算短信(添付資料)6ページ 2. その他の情報(2)簡便な会計処理及び特有の会計処理の概要をご覧ください。

(3) 会計処理の原則・手続、表示方法等の変更

① 会計基準等の改正に伴う変更 : 有

② ①以外の変更 : 無

(注) 詳細は、四半期決算短信(添付資料)6ページ 2. その他の情報(3)会計処理の原則・手続、表示方法等の変更の概要をご覧ください。

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)	23年3月期第1四半期	255,885,166株	22年3月期	255,885,166株
② 期末自己株式数	23年3月期第1四半期	11,650,533株	22年3月期	11,650,235株
③ 期中平均株式数(四半期連結累計期間)	23年3月期第1四半期	244,234,734株	22年3月期第1四半期	244,236,279株

## ※ 四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続の対象外であり、この四半期決算短信の開示時点において、金融商品取引法に基づく四半期連結財務諸表のレビュー手続は終了していません。

## ※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

## ○添付資料の目次

1. 当四半期の連結業績等に関する定性的情報	2
(1) 連結経営成績に関する定性的情報	2
(2) 連結財政状態に関する定性的情報	4
(3) 連結業績予想に関する定性的情報	5
2. その他の情報	6
(1) 重要な子会社の異動の概要	6
(2) 簡便な会計処理及び特有の会計処理の概要	6
(3) 会計処理の原則・手続、表示方法等の変更の概要	6
3. 四半期連結財務諸表	7
(1) 四半期連結貸借対照表	7
(2) 四半期連結損益計算書	8
(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書	9
(4) 継続企業の前提に関する注記	10
(5) セグメント情報	10
(6) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記	12
4. 補足情報	13
(1) 連結損益計算書<四半期推移>	13
(2) セグメント情報<前四半期対比>	13
(3) 連結キャッシュ・フロー計算書<前年同期対比>	13

※ 当社は、以下のとおり投資家向け説明会を開催する予定です。この説明会で配布した資料については、開催後速やかに当社ホームページで掲載する予定です。

・平成22年7月26日(月) ・ ・ ・ ・ 機関投資家・アナリスト向け決算説明会

## 1. 当四半期の連結業績等に関する定性的情報

### (1) 連結経営成績に関する定性的情報

当第1四半期（平成22年4月1日から同年6月30日）の概況

当第1四半期におけるわが国経済は、個人消費が経済対策の効果もあって持ち直しているほかアジア向け輸出が堅調に推移していますが、雇用情勢は厳しく、また円高や株安の傾向が強まるなど、依然として厳しい状況が続いております。

当社グループの主要な需要業界におきましては、自動車、自動車タイヤ、半導体、フラットパネル・ディスプレイは、世界的な需要減退の影響により落ちこんだ前年同期を大幅に上回って推移しました。

原料面では、ナフサ価格が前年第1四半期以降上昇を続けており、石油化学系製品の原料価格は前年同期と比べて軒並み上昇しました。

このような状況のもと当社グループは、石油化学系事業では、輸出の拡販と、主要原材料価格の上昇に対応した価格改定に注力いたしました。また多角化事業では、グローバルマーケットでの展開と、製造コストの削減に注力いたしました。

以上の結果、当第1四半期の売上高は862億25百万円（前年同期比27.5%増）、営業利益100億32百万円、経常利益103億70百万円、四半期純利益56億1百万円となり、前年同期の赤字から黒字転換いたしました。

(単位：百万円)

区 分		前年第1四半期		当第1四半期		増減	
		金額	構成比	金額	構成比	金額	比率
売 上 高	エラストマー事業	26,679	39.4%	39,543	45.9%	12,863	48.2%
	合成樹脂事業	10,668	15.8%	12,984	15.0%	2,316	21.7%
	多角化事業	30,304	44.8%	33,697	39.1%	3,393	11.2%
	合計	67,652	100.0%	86,225	100.0%	18,573	27.5%

国内売上高	35,547	52.5%	45,531	52.8%	9,984	28.1%
海外売上高	32,104	47.5%	40,693	47.2%	8,588	26.8%

区 分	前年第1四半期		当第1四半期		増減	
	金額	売上比	金額	売上比	金額	比率
営業損益	△3,175	△4.7%	10,032	11.6%	13,208	—
経常損益	△2,494	△3.7%	10,370	12.0%	12,864	—
四半期純損益	△4,609	△6.8%	5,601	6.5%	10,210	—

(注) 前年第1四半期の売上高については、当年度から採用している新セグメントに組み替えております。



## (部門別の概況)

当第1四半期より、「セグメント情報等の開示に関する会計基準」を適用しており、セグメントの区分を従来から変更しております。詳細につきましては、10ページの(5)セグメント情報に記載しております。なお、(部門別の概況)における前年第1四半期(前年同期)の数値については、新セグメントの区分に組み替えて表示しております。

## (エラストマー事業部門)

合成ゴムの国内につきましては、スチレン・ブタジエンゴム、ポリブタジエンゴムなどの汎用合成ゴムは、自動車タイヤ生産が増加したことと、主要原材料価格の上昇に対応した価格改定により、販売数量、売上高ともに前年同期を大幅に上回りました。ニトリルゴム、エチレン・プロピレンゴムなどの機能性特殊ゴムも、自動車生産が増加したことと、主要原材料価格の上昇に対応した価格改定により、販売数量、売上高ともに前年同期を大幅に上回りました。輸出につきましては、汎用合成ゴムを中心に拡販を行った結果、販売数量、売上高ともに前年同期を上回りました。

エマルジョン主力製品の紙加工用ラテックスは、需要が伸び悩むなか、主要原材料価格の上昇に対応した価格改定により、売上高は前年同期を上回りました。

収益面では、拡販およびコスト削減に努めた結果、前年同期から大幅に改善し黒字転換いたしました。

以上の結果、当第1四半期のエラストマー事業部門の売上高は前年同期比48.2%増の395億43百万円、営業利益は31億3百万円となりました。

## (エラストマー事業)

(単位：百万円)

	前年第1四半期	当第1四半期	増減額	増減率
売上高	26,679	39,543	12,863	48.2%
営業損益	△5,011	3,103	8,115	—
営業損益率	△18.8%	7.8%	—	—

## (合成樹脂事業部門)

自動車、OA機器、アミューズメント向けの需要が回復してきたことと、主要原材料価格の上昇に対応した価格改定により、販売数量、売上高ともに前年同期を大幅に上回りました。

収益面では、拡販およびコスト削減に努めた結果、前年同期から大幅に改善し黒字転換いたしました。

以上の結果、当第1四半期の合成樹脂事業部門の売上高は前年同期比21.7%増の129億84百万円、営業利益は6億20百万円となりました。

## (合成樹脂事業)

(単位：百万円)

	前年第1四半期	当第1四半期	増減額	増減率
売上高	10,668	12,984	2,316	21.7%
営業損益	△1,176	620	1,797	—
営業損益率	△11.0%	4.8%	—	—

## (多角化事業部門)

半導体製造用材料では、ノートブックパソコンやスマートフォンを中心に、半導体の需要が堅調であり、A r F (フッ化アルゴン) レジストや多層材料を中心に販売量が増加し、売上高は前年同期を大幅に上回りました。

フラットパネル・ディスプレイ用材料では、内外の景気刺激策により液晶テレビ市場が好調に推移したほかノートブックパソコン需要も堅調であり、L C D (液晶ディスプレイ) 用材料の売上高は前年同期を大幅に上回りました。

収益面では、拡販およびコスト削減に努めた結果、前年同期と比べて大幅に増加しました。

以上の結果、当第1四半期の多角化事業部門の売上高は前年同期比11.2%増の336億97百万円、営業利益は前年同期比109.4%増の63億8百万円となりました。

## (多角化事業)

(単位：百万円)

	前年第1四半期	当第1四半期	増減額	増減率
売上高	30,304	33,697	3,393	11.2%
営業損益	3,013	6,308	3,295	109.4%
営業損益率	9.9%	18.7%	8.8%	—

## (2) 連結財政状態に関する定性的情報

## (財政状態の状況)

当第1四半期末における総資産は、前連結会計年度末に比べて25億81百万円減少しました。

流動資産は、現金及び預金が21億89百万円減少した一方で有価証券が80億円増加したことなどにより、23億63百万円の増加となりました。

固定資産は、有形固定資産が24億43百万円減少しました。また投資その他の資産が株安の影響等により22億69百万円減少したことなどから、49億45百万円の減少となりました。

負債は、前連結会計年度末に比べて23億4百万円減少しました。

流動負債は、原料価格が上昇している影響等により支払手形及び買掛金が35億16百万円増加する一方で未払法人税等の減少により、21億65百万円の減少となりました。

固定負債には大きな増減はなく、固定負債合計で1億39百万円の減少となりました。

純資産は、利益剰余金が24億73百万円増加する一方で、円高により為替換算調整勘定が15億98百万円減少したことなどから、前連結会計年度末に比べて2億77百万円減少しました。この結果、自己資本比率は67.1%、1株当たり純資産は1,019円91銭となりました。

## (キャッシュ・フローの状況)

当第1四半期末の現金及び現金同等物（以下「資金」という。）は、前連結会計年度末に比べて201億89百万円減少し、412億14百万円となりました。

## ①営業活動によるキャッシュ・フロー

当第1四半期における営業活動によるキャッシュ・フローは、143億50百万円となりました。税金等調整前四半期純利益93億8百万円からの主な調整項目は、減価償却費46億88百万円、法人税等の支払額57億2百万円であります。

前年同期対比では、税金等調整前四半期純利益が146億16百万円増加した一方で、法人税等の支払額が48億20百万円増加したことに加え、前年同期は在庫調整の影響によりたな卸資産の減少額が97億92百万円あったことなどから、営業活動によるキャッシュ・フローは19億78百万円増加しました。

## ②投資活動によるキャッシュ・フロー

当第1四半期における投資活動によるキャッシュ・フローは、306億94百万円の資金の減少となりました。主な項目は、定期預金の増加額140億円、有価証券（譲渡性預金）の取得による支出120億円、固定資産の取得による支出45億77百万円であります。

前年同期対比では、主に定期預金および有価証券が増加したことにより、投資活動によるキャッシュ・フロー（資金の減少）は235億37百万円増加しました。

## ③財務活動によるキャッシュ・フロー

当第1四半期における財務活動によるキャッシュ・フローは、32億7百万円の資金の減少となりました。主な項目は、配当金の支払額31億74百万円であります。

前年同期対比では、主に配当金の支払額が減少したことにより、財務活動によるキャッシュ・フロー（資金の減少）は7億51百万円減少しました。

## (3) 連結業績予想に関する定性的情報

平成22年4月26日に公表いたしました連結業績予想から変更はありません。

## 2. その他の情報

### (1) 重要な子会社の異動の概要

該当事項はありません。

### (2) 簡便な会計処理及び特有の会計処理の概要

#### (税金費用の計算)

税金費用については、当第1四半期連結会計期間を含む連結会計年度の税金等調整前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積もり、税金等調整前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算しております。なお、法人税等調整額は法人税等に含めて表示しております。

#### (棚卸資産の評価方法)

棚卸資産の簿価切り下げについては、収益性の低下が明らかなものについてのみ正味売却価額を見積もり、簿価切り下げを行う方法によっております。

### (3) 会計処理の原則・手続、表示方法等の変更の概要

#### 表示方法の変更

##### (四半期連結損益計算書関係)

「連結財務諸表に関する会計基準」(企業会計基準第22号 平成20年12月26日)に基づく財務諸表等規則等の一部を改正する内閣府令(平成21年3月24日 内閣府令第5号)の適用により、当第1四半期連結累計期間では、「少数株主損益調整前四半期純利益」の科目で表示しております。

## 3. 四半期連結財務諸表

## (1) 四半期連結貸借対照表

(単位:百万円)

	当第1四半期連結会計期間末 (平成22年6月30日)	前連結会計年度末に係る 要約連結貸借対照表 (平成22年3月31日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	34,487	36,676
受取手形及び売掛金(純額)	70,375	73,132
有価証券	42,000	34,000
たな卸資産	58,840	58,130
その他	26,230	27,630
流動資産合計	231,934	229,570
固定資産		
有形固定資産	85,878	88,321
無形固定資産	5,651	5,883
投資その他の資産	47,520	49,790
固定資産合計	139,049	143,995
資産合計	370,983	373,565
<b>負債の部</b>		
流動負債		
支払手形及び買掛金	63,170	59,653
短期借入金	14,170	14,161
未払法人税等	3,581	5,836
その他	17,663	21,099
流動負債合計	98,585	100,750
固定負債		
退職給付引当金	15,786	15,903
環境対策引当金	3,093	3,183
その他	3,094	3,026
固定負債合計	21,974	22,113
負債合計	120,560	122,864
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	23,320	23,320
資本剰余金	25,179	25,179
利益剰余金	226,364	223,890
自己株式	△22,220	△22,219
株主資本合計	252,643	250,170
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	2,392	3,610
為替換算調整勘定	△5,939	△4,340
評価・換算差額等合計	△3,546	△730
新株予約権	455	426
少数株主持分	871	833
純資産合計	250,423	250,700
負債純資産合計	370,983	373,565

(2) 四半期連結損益計算書  
【第1四半期連結累計期間】

(単位:百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自平成21年4月1日 至平成21年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成22年4月1日 至平成22年6月30日)
売上高	67,652	86,225
売上原価	56,914	63,089
売上総利益	10,737	23,135
販売費及び一般管理費	13,912	13,102
営業利益又は営業損失(△)	△3,175	10,032
営業外収益		
持分法による投資利益	294	608
その他	1,007	689
営業外収益合計	1,301	1,297
営業外費用		
為替差損	—	506
その他	621	453
営業外費用合計	621	960
経常利益又は経常損失(△)	△2,494	10,370
特別損失		
投資有価証券評価損	—	1,061
たな卸資産廃棄損	1,728	—
事業再編損	1,084	—
特別損失合計	2,812	1,061
税金等調整前四半期純利益又は税金等調整前四半期純損失(△)	△5,307	9,308
法人税等	△693	3,677
少数株主損益調整前四半期純利益	—	5,630
少数株主利益又は少数株主損失(△)	△4	29
四半期純利益又は四半期純損失(△)	△4,609	5,601

## (3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自平成21年4月1日 至平成21年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成22年4月1日 至平成22年6月30日)
<b>営業活動によるキャッシュ・フロー</b>		
税金等調整前四半期純利益又は税金等調整前四半期純損失(△)	△5,307	9,308
減価償却費	5,047	4,688
受取利息及び受取配当金	△211	△220
支払利息	53	37
持分法による投資損益(△は益)	△294	△608
投資有価証券評価損益(△は益)	—	1,061
売上債権の増減額(△は増加)	△3,015	2,155
たな卸資産の増減額(△は増加)	9,792	△1,603
仕入債務の増減額(△は減少)	2,879	4,548
その他	3,719	271
小計	12,662	19,639
利息及び配当金の受取額	646	452
利息の支払額	△54	△38
法人税等の支払額	△882	△5,702
営業活動によるキャッシュ・フロー	12,371	14,350
<b>投資活動によるキャッシュ・フロー</b>		
定期預金の増減額(△は増加)	758	△14,000
有価証券の取得による支出	—	△12,000
固定資産の取得による支出	△6,727	△4,577
貸付けによる支出	△1,058	△674
貸付金の回収による収入	461	428
その他	△591	129
投資活動によるキャッシュ・フロー	△7,157	△30,694
<b>財務活動によるキャッシュ・フロー</b>		
短期借入金の純増減額(△は減少)	△44	△106
配当金の支払額	△3,909	△3,174
少数株主への配当金の支払額	△2	△5
その他	△1	78
財務活動によるキャッシュ・フロー	△3,958	△3,207
現金及び現金同等物に係る換算差額	363	△761
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	1,619	△20,313
現金及び現金同等物の期首残高	37,125	61,404
連結の範囲の変更に伴う現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	255	123
現金及び現金同等物の四半期末残高	39,000	41,214



## (4) 継続企業の前提に関する注記

該当事項はありません。

## (5) セグメント情報

## I 報告セグメントの概要

当社の報告セグメントは、当社の構成単位のうち分離された財務情報が入手可能であり、取締役会が、経営資源の配分の決定及び業績を評価するために、定期的に検討を行う対象となっているものがあります。

当社は、本社に製品別の事業部を置き、各事業部は取り扱う製品について国内及び海外の包括的な戦略を立案し、事業活動を展開しております。また合成樹脂事業については、中核グループ企業が中心となって取り扱う製品について国内及び海外の包括的な戦略を立案し、事業活動を展開しております。

したがって、当社グループは、事業部および中核グループ企業を基礎とした製品別のセグメントから構成されており、「エラストマー事業」、「合成樹脂事業」および「多角化事業」の3つを報告セグメントとしております。

「エラストマー事業」は主に、自動車タイヤ用途の汎用合成ゴム、自動車部品用途の機能性特殊ゴム、樹脂改質用途の熱可塑性エラストマー、塗工紙用途の合成ゴムラテックス等を製造販売しております。「合成樹脂事業」は主に、自動車・OA機器・アミューズメント用途のABS樹脂等を製造販売しております。「多角化事業」は主に、半導体製造用フォトレジスト、カラー液晶ディスプレイ用材料、光ファイバー用コーティング材料等を製造販売しております。

## 各事業区分の主要製品

事業区分	主 要 製 品
エラストマー事業	スチレン・ブタジエンゴム、ポリブタジエンゴム、エチレン・プロプレングム等の合成ゴム及び精練加工品、熱可塑性エラストマー及び加工品、スチレン・ブタジエンラテックス、アクリルエマルジョン等のエマルジョン製品及び加工品、化成品
合成樹脂事業	ABS樹脂、AES樹脂、AS樹脂、ASA樹脂等の合成樹脂
多角化事業	半導体製造用材料(フォトレジスト、CMP材料、実装材料、多層材料等)、フラットパネル・ディスプレイ用材料(カラー液晶ディスプレイ用材料、反射防止膜材料等)、光学材料(光ファイバー用コーティング材料、機能性コーティング材料、耐熱透明樹脂及び機能性フィルム等)、機能化学材料(高機能コーティング材料、多機能高性能分散剤、工業用粒子、メディカル関連粒子等)、回路検査治具等機器、その他

なお、前期からの主な組み替え内容は、以下のとおりです。

- ・従来、区分掲記していたエマルジョン事業は、製品の内容・製造方法等が類似しており、また事業規模も大きくないことから、エラストマー事業に含めております。
- ・ブタジエンモノマー等の化成品について、従来は多角化事業としていましたが、製品の内容・製造方法等が類似しているため、エラストマー事業に含めております。
- ・エンジニアリング、物流、情報システムサービス等の事業支援を主にグループ企業向けに行っている連結子会社の事業損益について、合理的な基準に基づいてそれぞれの事業に按分しております。

## II 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

当第1四半期連結累計期間（自 平成22年4月1日 至 平成22年6月30日）

	報告セグメント				調整額 (百万円)	合計 (百万円)
	エラストマ ー事業 (百万円)	合成樹脂 事業 (百万円)	多角化事業 (百万円)	計 (百万円)		
売上高						
(1)外部顧客への売上 高	39,543	12,984	33,697	86,225	—	86,225
(2)セグメント間の内 部売上高又は振替 高	1,123	—	—	1,123	(1,123)	—
計	40,666	12,984	33,697	87,348	(1,123)	86,225
セグメント利益 (営業利益)	3,103	620	6,308	10,032	—	10,032

## III 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容（差異調整に関する事項）

報告セグメントの利益の金額の合計額と四半期連結損益計算書の営業利益は一致しております。

（追加情報）

当第1四半期連結会計期間より、「セグメント情報等の開示に関する会計基準」（企業会計基準第17号 平成21年3月27日）及び「セグメント情報等の開示に関する会計基準の適用指針」（企業会計基準適用指針第20号 平成20年3月21日）を適用しております。

前第1四半期連結累計期間の事業の種類別セグメント情報（旧区分）は以下のとおりであります。

前第1四半期連結累計期間（自 平成21年4月1日 至 平成21年6月30日）

	エラストマー事業 (百万円)	エマルジョン事業 (百万円)	合成樹脂事業 (百万円)	多角化事業 (百万円)	計 (百万円)	消去又は 全社 (百万円)	連結 (百万円)
売上高							
(1)外部顧客に対する 売上高	19,342	3,635	10,673	34,000	67,652	—	67,652
(2)セグメント間の内 部売上高又は振替 高	84	678	—	4,551	5,315	(5,315)	—
計	19,427	4,313	10,673	38,552	72,967	(5,315)	67,652
営業利益	△4,396	△478	△1,200	2,900	△3,175	—	△3,175

(注) 1. 事業区分の方法

事業区分の方法は、事業目的において区分された項目別とし、その事業規模も勘案して、エラストマー事業・エマルジョン事業・合成樹脂事業及び多角化事業に区分しております。

2. 各事業区分の主要製品

事業区分	主 要 製 品
エラストマー事業	汎用合成ゴム、機能性特殊ゴム、熱可塑性エラストマー、原料ゴムの精練加工品等
エマルジョン事業	紙加工用ラテックス、一般産業用ラテックス、アクリルエマルジョン、原料ラテックスの精練加工品等
合成樹脂事業	ABS樹脂、AES樹脂、AS樹脂、ASA樹脂、合成樹脂の着色加工品等
多角化事業	半導体製造用材料(フォトレジスト、CMP材料、実装材料、多層材料等)、フラットパネル・ディスプレイ用材料(カラー液晶ディスプレイ用材料、プラズマ・ディスプレイ用材料等)、光学材料(光ファイバー用コーティング材料、機能性コーティング材料、反射防止膜材料、耐熱透明樹脂及び機能性フィルム等)、機能化学材料(高機能コーティング材料、多機能高性能分散剤、工業用粒子、メディカル関連粒子等)、化成品、電子機器部品の検査治具・装置等

参考までに、前第1四半期連結累計期間の事業の種類別セグメント情報を、当年度から採用する新セグメント区分に組み替えると以下のとおりとなります。

(参考) 前第1四半期連結累計期間（自 平成21年4月1日 至 平成21年6月30日）

	報告セグメント				調整額 (百万円)	合計 (百万円)
	エラストマー事業 (百万円)	合成樹脂事業 (百万円)	多角化事業 (百万円)	計 (百万円)		
売上高						
(1)外部顧客への売上 高	26,679	10,668	30,304	67,652	—	67,652
(2)セグメント間の内 部売上高又は振替 高	763	—	—	763	(763)	—
計	27,443	10,668	30,304	68,415	(763)	67,652
セグメント利益 (営業利益)	△5,011	△1,176	3,013	△3,175	—	△3,175

(6) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記

該当事項はありません。

## 4. 補足情報

## (1) 連結損益計算書 &lt; 四半期推移 &gt;

(単位:百万円)

	平成22年3月期					平成23年3月期
	第1四半期	第2四半期	第3四半期	第4四半期	年度	第1四半期
売上高	67,652	75,291	84,154	83,085	310,183	86,225
営業損益	△3,175	6,466	8,011	8,927	20,230	10,032
経常損益	△2,494	5,602	8,925	10,343	22,377	10,370
四半期純損益	△4,609	4,160	6,524	7,569	13,644	5,601

## (2) セグメント情報 &lt; 前四半期対比 &gt;

(単位:百万円)

	平成22年3月期 第4四半期		平成23年3月期 第1四半期		増減	
	売上高	営業損益	売上高	営業損益	売上高	営業損益
エラストマー事業	39,177	3,290	39,543	3,103	365	△187
合成樹脂事業	12,600	296	12,984	620	383	324
多角化事業	31,307	5,341	33,697	6,308	2,390	967
連結	83,085	8,927	86,225	10,032	3,140	1,104

## (3) 連結キャッシュ・フロー計算書 &lt; 前年同期対比 &gt;

(単位:百万円)

	平成22年3月期 第1四半期	平成23年3月期 第1四半期	増減
営業キャッシュ・フロー	12,371	14,350	1,978
投資キャッシュ・フロー	△7,157	△30,694	△23,537
財務キャッシュ・フロー	△3,958	△3,207	751
現金及び現金同等物	39,000	41,214	2,214